

2020 年度



## Globe 実践をふり返って

東川中学校

### 研究開発の今年度の重点

#### 1 カリキュラムの見直し

- (1) Globe 授業にかかわる指導方法、評価方法の充実
- (2) Communication 要素の評価 (CAN-DO リスト) の充実

#### 2 国際教育の接続について

- (1) Local/Global 要素の系統性の確立
- (2) 教科横断的指導の充実

### 本校の研究 (校内研修) の概要

#### I 研修テーマ

「主体的に学び、学びを生かそうとする力を育む教育課程の創造」  
～グローバル化する社会で活躍できる生徒の育成を目指して～

#### II 研修内容

##### (1) 教科横断的な視点を取り入れた指導計画の工夫

- ・教科等間の内容事項について、相互の関連付けや横断を図る手立てや体制を整える。  
→今までの Globe 別様に改良を加えて教科横断的な指導を充実させることを目指していく。  
他教科の教育課程においても Globe 以外の教科との関連を図る改善を進めていく

##### (2) 生徒の主体的・対話的な学びを保障する学習活動の工夫

###### ① 「主体的に学び、学びを生かそうとする力」を身に付けるための学びの過程

- (ア) 自ら課題を見つけること                      (イ) 自ら学ぶこと                      (ウ) 自ら考えること
- (エ) 主体的に判断すること                      (オ) よりよく解決する能力を身に付けること

###### ② 「主体的に学び、学びを生かそうとする力」を身に付けるための場面

- (ア) 自ら学ぶ、共に学ぶ場面                      (イ) 多面的、総合的に考える場面
- (ウ) 主体的に課題を解決する場面

##### (3) 生徒自身が自らの学びを振り返り、指導の改善に生かすための評価の工夫

- ・「主体的に学習に取り組む態度」に重点を置いて研究を進めていく。
- ・日々の記録やポートフォリオなどを通じて、子供たち自身が把握できるようにしていく。

# 1. Globe の授業実践



## 【一斉研修日公開授業】

中学校1年 Globe6 「東川町の職業人を紹介しよう」では、東川で活躍している職業人を外国人の方に紹介する活動を行った。職業人がどのような思いで仕事をしているのか、そして、東川町に対する思いなどを知り、東川町に対する考えを深めた。発表当日は、東川町在住の JETs 5 人に対して、自分たちが担当した職業人について英語で説明をした。英語での発表を通して、外国人の方に伝わったという嬉しさや、JETs が感じている東川町の魅力を知ることができた。また、JETs からの質問時間では、今の東川町がより魅力的な街になるために何があったら良いかなどの話をしているグループもあった。

みんな東川町で仕事をしたいと思って楽しそうだった。  
 また、外国人など遠く角度からの東川町の魅力を知れておもしろかった。自分も好きなことを見つけたい仕事にできればいいなと思った。

## 【Communication 要素の評価の充実】

### <Globe Trial>

町内の ALT, CIR, SEA と連携し Globe Trial を実施した。英語を母国語とする国の出身の先生方だけでなかったことで、様々な英語に触れることができた。(今年度は、アメリカ、カナダ、ラトビア、ポーランド、ミャンマーであった。) 昨年度の活動を通して、複数回 Trial に挑戦したい生徒がいたことから、今年度も複数回挑戦しても良いという方法で実施した。JET が生徒の振り分けを行い、毎回異なる先生方とコミュニケーションが図れるように工夫した。評価は、以下のシートを使い ALT たちにも表現に関わる内容については評価してもらっている。

	Improvisation	Communication	Attitude	Total
Evaluation	0 - 1 - 2	0 - 1 - 2	0 - 1 - 2	5
Criteria	2... Within 10 Sec 1... 10 sec or more 0... No answer	2... Sentence level 1... Words Level 0... No Answer	2... Include more than 3 elements 1... Include one or two elements 0... No	5

生徒たちは、Trial カードを持っており、それをトライアルごとに担当者へ渡す。そのカードには ①どんな質問をされたか ②その回の評価 が記入されているため、担当する ALT たちもその生徒に合わせて難易度を調整しながら質疑応答することができる。

Goal <div style="border: 1px solid green; height: 50px; width: 100%;"></div>	【1】 Q. 3  【2】 Q. 5 
☆☆☆☆Excellent! ☆☆☆ Great! ☆☆ Very Good! ☆ Nice Try!	

## 2. 国際教育の接続について

### 【Local / Global 要素の系統性】

中学校3年 Globe 4 「災害」～災害や緊急時の対応について、自分たちができることを考えよう～の単元では、東日本大震災時や北海道胆振東部地震による大規模停電（ブラックアウト）について学習した。当時の様子を映像で見るだけでなく、胆振東部地震の際に起きた大規模停電によって東川町内のALTたちが不安な日々を過ごしたという体験談を（当時、実際にその体験をしたALTから）生徒に話し、外国人から見た日本や東川町での対応についても学習した。



単元のまとめとして、災害や緊急時の対応についてロールプレイングを通して、困っている外国人に対して、何が出来るかを考えて行動する活動をした。事前にいくつかの緊急時の場面設定を説明していた際に、ALT、CIR、SEA から自然な声のかけ方や、日本に来て困った経験や、どのように助けてくれるとありがたいかなどを伝えてくれたことによって、より実践的なやりとりになった。また、ロールプレイング後に、ALTたちのそれぞれの出身地、または日本にきて体験した災害や緊急時の対応などを話す時間では、即興で質問し、会話をつづけようとする姿があった。



災害のとき、外国人は日本語が読めるかどうか分からないのニュースや放送を聞いてどうすれば良いのかわからないことがあった。このことから災害のときには不安な気持ちでいるということがわかったので、普段から近所に住んでいる外国人に対して近所付き合いをして、言葉をかけられるように替えていきたいと思った

### 【教科横断的な取り組み】

本校では Globe の別業をもとに、教科横断的な授業実践をした。

中学2年 Globe 5 「Universal Design (UD)」の学習では、UDの考えを入れた商品開発を行う単元である。その1つとして、本校の美術科教師にゲストティーチャーとして授業に招き、「色覚障がいのある人から見た世界」について iPad を用いた体験的な学習を展開した。アプリを通してみた画面上には、3タイプの色覚をもった人から見える世界を確認し、ユニバーサルカラーの重要性を体験することができた。



また、単元の終末に東川町にある旭川福祉専門学校へ行き、ユニバーサルデザインについての説明を聞いたり、車イス体験をした。

この体験学習を通して福祉について考えたことがなかった生徒が多かったが、身近な問題として真剣に捉える生徒が増えた。



・エニバーサリティは、たいていは「何となく」感じたり、自分か思っているより、  
もっと多くのエニバーサリティが身近にあると感じたりしている。特に、世界地図の上にあ  
る「何となく」感じたり、たいていは「何となく」感じたりしている。それによって、  
見えるように工夫されているものが、たいていは「何となく」感じたりしている。  
・また、一部の人は、使ったり、何となく感じたりしている。それによって、  
見えるように工夫されているものが、たいていは「何となく」感じたりしている。

### 3. 今年度の成果と課題

#### 【Communication 要素】

- コロナ渦で、町内の人材を活用した取組が例年よりも少なくなってしまったのが残念であった。しかし、Globe Trial や ALT たちを呼んで行った授業を通して、英語で話したいと思っている生徒が増えていることもわかった。
- ALT たちとの交流できる場面で、質問されたことに対して即興で答えたり、なんとか答えよう・伝えようとする時間をより充実したものにしていける工夫が必要である。  
→Globe Trial のテーマ設定や、ゲストで来てもらう回数を増やすなど

#### 【Local / Global 要素】

- 教科横断的な視点を取り入れた指導計画の工夫  
→別葉を活用し、授業実践を行うことができた。2年生の授業では、単元の最後の製品開発で、多角的に考えることができた。また、他教科で学習した内容と関連させながら学習を進めることができるので、生徒自身の気付きや発見も多く充実した時間になった。
- SDGs の考えを取り入れた単元デザインに基づき、JAICA のワークショップ形式を取り入れた授業を位置づけるなど、東川町発→世界の今日的な課題→東川着・・・自分事として捉える、Local/Global 要素の関連を意識した単元デザイン工夫を行うことができた。(3年 Globe 6 など)
- 他教科の教育課程においても Globe 以外の教科との関連を図ることが必要  
→学習内容にとらわれすぎずに、指導方法やアプローチの仕方、生徒の発表の仕方など共有していけるとよいと考える。次年度以降、本格的に iPad が導入されることもあるので、各教科で繋がりをもって指導していけるとよいと考える。